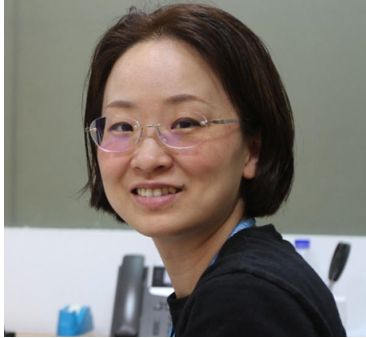


Bangladesh フィールド便り

2024年 No2.



山田悦子
プログラムアナリスト

フェリス女学院大学卒業後、東京大学院(人間の安全保障プログラム)及びブラッドフォード大学院(英国)で修士号(MA in Conflict, Security and Development)を取得。その後、外務省(国際協力局 国別開発協力第三課)、青年海外協力隊(カメルーン、コミュニティ開発)、国連PKO/国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッションMINUSCA(政務及び危機管理)に勤務。2022年3月より現職。

はじめまして

私は、2022年3月より日本政府(外務省)のジュニア・プロフェッショナル・オフィサー(JPO)制度を通じて、国連人口基金(UNFPA: United Nations Population Fund) バングラデシュ事務所 でプログラムアナリストとして働いている山田悦子です。今回はJPO制度のメリットや研修制度を紹介させていただきます。*詳しいJPO制度の説明は外務省HPを参照ください。 <https://www.mofa-irc.go.jp/jpo/seido.html>

JPOのメリット

1) JPO研修@本部(写真: UNFPA本部の入り口): JPOを対象にした研修会をUNFPA本部人事局が開催してくれました。カリキュラムは本部にある部署の役割、進路の進め方、先輩JPOとの交流です。国事務所で働いているため、自分の業務がどのように本部とかかわっているのか、日頃の疑問点を本部の方に直接聞く貴重な機会でした。また、国連日本代表部で開催されたキャリアセミナーに参加できたのも貴重な機会でした。合間を縫って、国事務所で自分が行っている業務と関連のある部署のスタッフ

(UNFPAの政策や評価、モニタリング方針を決める部署: Strategy Policy and Standards Branch (SPSB)/プログラミングに関する方針を担当する部署: Operational Support and Quality Assurance Branch等)にお願いして、コーヒーを飲みながら業務について、本部の考え、国事務所で業務と本部との政策の関連性、キャリア形成についてお話を聞いたことがとても参考になりました。また同じような悩みを持つ、違う国事務所のJPOと共有できたことも仕事をよりよく進めるヒントになりました。



2) 代表、副代表との距離、“JPOという共通点”: 私が派遣されたバングラデシュ事務所は、成田副代表(当時)またクリスティン代表(ノルウェー出身)及び、その後に着任した渡部副代表すべてがJPO制度を利用した大先輩JPOで構成されています。さらにかかわった両副代表は日本人であるため、日本語で仕事のアドバイスなどをいただけるのは非常に有難いです。代表も、JPOを切り口に国連でキャリアを切り拓く方法などのアドバイスなどを気軽に話してくれます。また日本から支援をいただいたプロジェクトでは、プログラムやプロジェクトすべてを監督する渡部副代表と直接指導を頂くことで、副代表としての役割、判断、視点、仕事の仕方を学ぶことができます。

JPO研修費など

3) 日本政府から提供される様々な研修機会: JPO研修費: JPO派遣の後に正規ポストを獲得できるよう、日本政府はJPO派遣前から専門性を高めるための様々な研修機会を与えてくれます。以前、国連ボランティア(政務官 Political Affairs Officer)として中央アフリカ共和国で勤務した時には、派遣前の研修は特にありませんでした。一方で、JPOは派遣前から先輩からのアドバイス集の共有、2日かけて行われる派遣前研修で日本外交とJPOの関連、国連の福利厚生、人事制度、コンピテンシー・ベースド・インタビュー(Competency Based Interview: CBI)など国連での就職面接のコツなどを教えていただけます。

また派遣中も、国連ポストへ応募する効果的な履歴書、レジュメの書き方など魅力的な講師陣からの指導を無料で受けられることも非常に有難いです。これに加えて、所属するUNFPA内部でも人事局によるコーチング、レジュメの書き方などのトレーニングも利用できます。

JPO研修費(派遣期間中の2年間、年間3000USD)を活用し、私はモニタリング及び評価についてより専門性を高めたかったため、代表から紹介されたオランダのトレーニングを受講することにしました(写真参照)。オンラインコースから始まり、対面での研修では世界中から集まった参加者と自分の持つプロジェクトでの課題や悩みを一緒に共有し、意見を出し、考える機会がとても印象的でした。講師の中には国連の経験がある方もいて、その方の話を聞くのも興味深かったです。

UNFPAを含めていくつかの国連組織では3か月間の“出向”制度もあります。JPOの同期や先輩が

研修費を使って、出向先を見つけ、籍は派遣国においたまま地域事務所や本部へ出向するケースを見てきました。私の同僚は10年以上ナショナルスタッフとしてバングラデシュで勤務していましたが、インターナショナルスタッフとして勤務したい、バングラデシュでの経験を活かしたいという思いで3か月UNFPAアフガニスタン事務所に出向しました(写真参照: 左から筆者、アフガニスタンへ出向した同僚、M&E同僚、上司M&Eユニットチーフ)。



国連では、自分が所属するUNFPAIに加えて国連事務局が開催する訓練、ウェビナー、オンラインコースなどを受講することもできます。

例えば毎年10月ごろには本部主導のインダクション・テクニカルコース、定期的に特定分野における最新の情報(ICPD(国際人口開発会議)、CVA(現金・バウチャー支援)、ネクサス(人道支援、開発、平和の連携)、組織内で使用するソフトの使い方、最近導入されたDuet AIの使い方、コーチング、メンター制度)が共有されます。国連ボランティア時代も有料コースを無料で受けられる機会(Coursera, linkedin learning, ロゼッタストーン)をたくさんいただきましたが、JPOになるとさらにより多くの機会が得られます。

